

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8 - 1 - : 大学において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

【観点到係る状況】

本学の施設における校地・校舎面積は、資料 8 - 1 - 1 - A のとおりである。

教育研究施設は渡り廊下で接続された 7 棟並びに独立の 7 棟の研究棟、研究棟に接続された講義棟 4 棟、別棟の学術情報研究センターの図書館、情報館、教育資料館の 3 棟、教育実践総合センターからなる。また、屋内体育施設として、講堂、体育館、武道場、舞蹈室、課外活動共用施設、学生会館等の共通施設があり、屋外体育施設として、多目的運動場、テニスコート、弓道場、プール等を整備している。

講義棟 1・2 号棟は、平成 11 年度に使用状況調査を行い、その結果を基に平成 12 年に中教室を小・中教室に改修がなされた。講義室 27 室(総面積 2,067 m²、収容人数 1,765 人)の稼働率は 63%となっている。少人数教育が主で、大教室は 1 室のみ。情報館には実習室(3 室)が設置されている。

これらの教育・研究施設についての使用状況調査は、平成 17 年度に行い、使用者一覧表を作成した。平成 18 年度は現地調査を行い、教員研究室、実験実習室、大学院生室、共同利用スペース等の点検・評価を行った。稼働率の低い講義室、実験室等は共同利用スペースとし、退職した教員の研究室は学長管理とし、「奈良教育大学施設の有効活用に関する要項」(別添資料 8 - 1 - 1 - 1)に基づいて貸し出している。この外、学生の自主学習や議論の場として、学生オフィス、国際交流室、情報室が配置されている。

また、施設・設備のバリアフリー化については、講義室、研究棟にスロープ、エレベーターが設置されており、障害者用トイレの位置を構内案内板に明示し、随時改修を行ってキャンパスアメニティ環境の向上に努めている。

資料 8 - 1 - 1 - A 校地・校舎面積(平成 21 年 5 月 1 日現在) (単位: m²)

区 分	校 地	校 舎
本部及び教育学部	147,060	32,953
附属幼稚園		1,013
附属小学校		(注) 8,883
附属中学校	30,146	5,805
自然環境教育センター	1,768,633	1,175
奈良実習園	11,034	564
奥吉野実習林	1,757,599	611
国際学生宿舎	4,621	2,350
橘寮	2,220	1,741
教職員宿舎	7,802	4,227
計	1,960,482	59,322

(注) 特別支援学級 1,426 m²含む。

・別添資料 8 - 1 - 1 - 1 奈良教育大学施設の有効活用に関する要項

【分析結果とその根拠理由】

本学の校地面積は、基準面積 11,500 m²の約 13 倍であり、校舎面積は、基準面積 11,238 m²の約 3 倍あり、大学設置基準に適合している。

講義棟の講義室の全室に冷暖房用空調設備が設置され、良好な教育環境を確保している。

施設の有効活用に関する要項を定め、貸し出しを行っている。

施設・設備のバリアフリー化については、講義室・研究棟にスロープ・エレベータを設置しており、障害者用トイレの場所を明示している。ただし、図書館玄関に至る道のバリアフリー化の必要がある。

学生の学習環境向上のため、学生オフィス、交流室、情報室を設置している。

以上のことから、教育・研究の目標達成に必要なかつ十分な施設・設備が整備され、有効に活用されていると判断できる。

観点 8 - 1 - 1 : 大学において編成された教育課程の遂行に必要な I C T 環境が整備され、有効に活用されているか。

【観点に係る状況】

キャンパス情報ネットワークは、全棟を光ファイバ(1000BASE-LX, 1000BASE-SX 等)により高速通信できるように整備しているとともに、遠隔地の寮とは、指向性の無線 LAN によって接続している(別添資料 8 - 1 - 2 - 1) 学外接続として、広域イーサネット(100Mbps)により、同志社大学 NOC を経由して学術情報ネットワーク(SINET)に接続している。教育・研究活動の利用をはじめ、研究情報の交流、地域・学校現場・企業等への各種情報発信等に利用されている。その際、安全に学外へ情報提供できるように、Firewall を整備運用している。この仕組みは、不正アクセス等の迷惑行為が行えない仕組みとしても機能させている。キャンパス情報ネットワークには、あらかじめ登録された PC のみが接続できる。

また、共同利用 PC として、資料 8 - 1 - 2 - A に示す設置場所に合計 238 台(PC 1 台あたり学生 5.7 人)を配置し、学生の教育・研究活動に提供している。

学習支援機能を高めた e-learning の取組としては、Web-CT 等を導入しており、教員が授業に関するホームページを作製し、授業に対する学生からの意見も集めることができる環境を整えている(資料 8 - 1 - 2 - B)。

情報ネットワークの円滑な運用及びセキュリティ対策を図るため、「奈良教育大学キャンパスネットワーク利用規則」、「奈良教育大学個人端末接続規則」及び「奈良教育大学学外端末接続規則」の諸規程を整備している。セキュリティ面では、「国立大学法人奈良教育大学情報セキュリティポリシー」を制定しており、最高情報セキュリティ責任者の下、情報セキュリティを確保するための組織及び責任者を明確にしている。教職員・学生などの利用者には、冊子『情報モラルとマナーについて』などにより情報セキュリティポリシーの周知を行うとともに、新入生には授業において説明し、新任教職員には利用ガイダンスの研修を実施している。

コンピュータ設備の利用に対する調査は、平成 17 年度、平成 19 年度在学生調査で実施しており、資料 8 - 1 - 2 - C に示す調査結果が得られている。

資料 8 - 1 - 2 - A 共同利用 PC の設置場所

設置場所	PC 台数	備 考
情報館 2F 「演習室 A」	31 台	
情報館 2F 「演習室 B」	21 台	
情報館 3F 「実習室」	83 台	
教育実践総合センター 「メディアルーム」	15 台	
図書館 「エントランス」 「パソコン室」	33 台	授業期間中の土曜日利用可 平日 8:30PM まで利用可
文科棟 1F 「情報サテライト」	15 台	平日 8:30PM まで利用可
講義棟 「301 パソコン室」	40 台	平日 8:30PM まで利用可
合 計	238	

主な共通ソフトウェア

・Windows XP Professional ・Microsoft Office 2003 Professional ・Microsoft Office Professional Plus 2007 [Word, Excel, Power Point, Access] ・Symantec Endpoint Protection (ウイルスチェック・駆除) ・Mozilla Thunderbird (メール) ・Microsoft Internet Explorer ・Mozilla FireFox (WWW ブラウザ) ・Adobe Photoshop CS3 (画像編集) ・Adobe Illustrator CS3 (グラフィック制作) ・Microsoft Visual Studio 2007 ・JAVA (プログラミング言語) ・IBM Homepage Builder (ホームページ作成) ・秀丸 (テキストエディタ) ・キューブきっず2 (小学校教育用統合ソフト) ・キューブNEXT2 (中学校教育用統合ソフト) ・pLaTex (組み版・テキスト整形) ・Adobe Premiere ・Canopus Edius-J (ビデオ編集)

資料 8 - 1 - 2 - B Web-CT、WBLSS を活用している授業

平成 20 年度前期	平成 20 年度後期
) Web-CT ・英作文 I ・国際理解教育演習 ・音声学音韻論 ・道徳教育の研究 ・倫理学 ・総合演習 ・中等教科教育法 III (保健体育) ・システムプログラミング ・数理プログラミング I ・情報機器の操作) WBLSS ・情報機器の操作) Web-CT ・知的障害教育方法 (障害児教育課程論) ・特別支援教育方法学特論 ・英作文 II ・情報科学入門 II ・情報システム論 ・総合教育基礎ゼミナール III (情報数理) ・外国語コミュニケーション H ・中等教科教育法 I (理科) ・中等教科教育法 II (理科) ・初等教科教育法 (理科) ・日本語学演習 D ・球技 (バスケットボール型) ・初等教科教育法 (体育) ・幼児と健康 II ・マルチメディア概論 ・情報通信システム工学

	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方法・メディア(総合教育課程)) WBLSS ・情報メディアの活用 ・情報と職業 ・中等教科教育法 II (情報) ・教師のための情報倫理
--	--

(用語註)

) Web-CT (Web course control) とは、ネットワーク上で授業を運営・管理するための WWW のアプリケーションで、授業でホームページを簡単に作成・運営するためのツール。

) WBLSS (Web Based Learning Support System) とは、自己学習支援システムで、学習内容がユニット単位で分割されており、学習者はユニット選択により多様な自主学習が可能となる。

資料 8 - 1 - 2 - C コンピュータ設備の利用に関する調査結果

	とても満足 + まあ満足	あまり + まったく不満足
コンピュータ設備の充実・整備 (平成 17 年度)	70.1%	15.0%
	満足している	不満である
コンピュータ設備 (平成 19 年度)	53.9%	6.0%

(平成 17 年度は 5 段階評価、平成 19 年度調査は 3 段階評価)

【出典：平成 17 年度、平成 19 年度在学生調査】

・別添資料 8 - 1 - 2 - 1 ネットワーク等構成図

【分析結果とその根拠理由】

情報インフラとしてのキャンパスネットワークは、共同利用 PC も整備し、学生に快適な利用環境を与えている。最近の在学生に対する調査では、比較的高い満足度が得られている。運用面では、諸規定の整備により、情報ネットワークの円滑な運用及びセキュリティ対策を図るとともに、構成員には授業や研修等を通じてそれらを周知している。

以上のことから、教育課程の遂行に必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されていると判断できる。

観点 8 - 1 - : 施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

【観点に係る状況】

全学的視点からの施設確保・活用については、「施設マネジメントに関する基本方針」を策定している。(別添資料 8 - 1 - 3 - 1)

各施設・設備の運用については、学内規則等で明確に規定し、これらの規則等は大学のホームページに掲載している(資料 8 - 1 - 3 - A)。教職員及び学生への利用方法・案内については、大学のホームページに掲載(資料 8 - 1 - 3 - B) あるいは施設によってはパンフレットを作成し、周知を図っている。特に学生に対しては、

入学時全員に配付する冊子『学生生活』に掲載し、周知している(資料8-1-3-C)

資料8-1-3-A 大学ホームページ『奈良教育大学規則集』に掲載している施設・設備の利用に関する規則

厚生補導関係施設等(第15章・厚生補導)	センター等(第17章・施設・センター)
<ul style="list-style-type: none"> ・奈良教育大学学生相談室規則 ・奈良教育大学学生会館規則 ・奈良教育大学学生会館使用細則 ・奈良教育大学寄宿舍規則 ・奈良教育大学国際学生宿舎規則 ・奈良教育大学国際交流室使用規則 ・奈良教育大学学生オフィス使用規則 ・奈良教育大学大学院生研究室使用規則 ・奈良教育大学共同演習室使用規則 ・奈良教育大学共同実験・演習室使用規則 ・奈良教育大学情報サテライト室使用規則 ・奈良教育大学課外教育活動施設使用規則 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良教育大学保健管理センター規則 ・奈良教育大学学術情報研究センター規則 ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館利用規則 ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館文献複写規則 ・奈良教育大学学術情報研究センター図書館利用細則 ・奈良教育大学学術情報研究センター情報館利用細則 ・奈良教育大学学術情報研究センター教育資料館利用細則 ・奈良教育大学教育実践総合センター規則 ・奈良教育大学自然環境教育センター規則 ・奈良教育大学特別支援教育研究センター規則 ・奈良教育大学理数教育研究センター規則 ・国立大学法人奈良教育大学講堂使用要領 ・国立大学法人奈良教育大学講堂使用細則 ・国立大学法人奈良教育大学職員会館使用要領 ・国立大学法人奈良教育大学施設使用要領

(備考) 奈良教育大学規則集 URL (ただし、学内限定)
<http://jimuhpsrv.nara-edu.ac.jp/private/kisoku/kisokumokuji.htm>

資料8-1-3-B 施設・設備の利用案内等に関するホームページのURL(例)

<ul style="list-style-type: none"> ・保健管理センター http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/HOKENKANRI/homepage.htm ・学術情報研究センター図書館「図書館利用案内」 http://www.nara-edu.ac.jp/LIB/libriyo.htm ・学術情報研究センター情報館「利用に関する手引」 http://www.nara-edu.ac.jp/NT/newacct.htm ・学術情報研究センター教育資料館「利用案内」 http://www.nara-edu.ac.jp/LIB/kyriyo.htm ・教育実践総合センター「センターの利用について」 http://www.nara-edu.ac.jp/CERT/homepage.htm#equipment ・自然環境教育センター「センターの目的、概要と利用案内」 http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/mokuteki.htm
--

資料8-1-3-C 冊子『学生生活』における施設・設備利用案内の掲載例(学生オフィスの例)

<p>(11) 学生オフィス 文科棟・文美棟に学生の自学・自習の場及び憩いの場として学生オフィスがあります。</p> <p>(注意事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生オフィスは年末年始(12月28日～1月4日)を除き利用できます。 ・学生オフィスの利用時間は午前7時～午後10時30分です。必ず、利用時間を守って下さい。 ・室内では禁煙です。火災の防止に十分注意して下さい。 <p style="text-align: center;">∴ 【 以下省略】</p>
--

【出典：『学生生活』p27】

・別添資料8-1-3-1 奈良教育大学における施設マネジメントに関する基本方針(平成18年規則第78号)

【分析結果とその根拠理由】

全学的視点からの施設確保・活用については、「施設マネジメントに関する基本方針」を策定している。

個別の施設・設備の運用については、学内規則等で明確に規定しており、学生・教職員へは、大学ホームページやパンフレット、冊子『学生生活』により周知している。

以上のことから、施設・設備の運用に関する方針が明確に規定され、大学の構成員に周知されていると判断できる。

観点 8 - 2 - : 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

【観点到に係る状況】

本学の図書館は、学術情報研究センターに置かれ、同センターの図書館部門がその業務を担っている（資料 8 - 2 - 1 - A）。座席数 177 席の閲覧室や、開架・閉架書庫のほか、文庫本室、資料室、貴重図書室、AV コーナー、えほんのひろば、パソコン室などを整備している（資料 8 - 2 - 1 - B）。また、学生の主体的学習を支援するため、平日の夜間に加え、土曜日も開館している（資料 5 - 2 - 3 - B）。

図書館の蔵書等の数は、資料 8 - 2 - 1 - C のとおりである。

本学は図書資料を「図書資料収集方針」に基づき収集している（資料 8 - 2 - 1 - D）。講義に関連する図書や学生の教養を高める図書について教職員・学生からの推薦を随時受け付けており、図書館資料の充実を図っている（資料 8 - 2 - 1 - C）。教科書・指導書については、教育実習用として、奈良市内の主要小・中・高等学校が使用するものを主に購入している。小学校・中学校は本学附属校、奈良市教育委員会採用の教科書を各科目 3 冊ずつ、採用されていない教科書も各科目全種類を 1 冊ずつ購入している。これらは、教科書・指導書コーナーを設けて学生の利用に供している。また、シラバス図書については、各授業科目を担当している教員が、履修する学生が必読すべき、または参考として読むべき図書として指定したものを整備し、専用のコーナーを設けている。

「えほんのひろば」は、附属学校園との連携教育、また地域の家庭教育の支援を目的に開設した、特色ある取組である。絵本を活用した授業の場、附属幼稚園園児の保育、学生のクラブ活動での利活用の場、子育て支援としての地域における交流の場及び現職教員（公立図書館司書を含む。）の再教育の場となるよう充実を図っている。

学生の利用に資するため、「図書館利用案内」の冊子を配付し、新入生には図書館利用のガイダンスを実施している。学生への貸出実績は、資料 8 - 2 - 1 - E のとおりである。学生 1 人あたりの貸出冊数は年間約 13 冊となる。なお、利用者の多様な資料要求に応えるためには、単館でのサービスには限界があるため、全国の大学が資料提供面で図書館間の相互協力を実施している。本学でも必要な資料を収集提供することとしているが、不足部分に関しては、この大学間の協力を通じて利用者の要求に応えている。平成 20 年度実績として、図書館資料の貸借では、本学から貸し出したもの 104 冊、本学が借り受けたもの 110 冊である。また、文献複写サービスでは、本学が受け付けたもの 786 件、本学から依頼したもの 720 件という状況である。

資料 8 - 2 - 1 - A 図書館組織関係規程

国立大学法人奈良教育大学学則
(学術情報研究センター)

第 2 2 条 本学に、教育と研究に関わる学術情報・資料の収集、利用及び活用を促進するため、学術情報研究センターを置く。

- 2 学術情報研究センターに、図書館を置く。
 3 学術情報研究センターに関し、必要な事項は、別に定める。

奈良教育大学学術情報研究センター規則

(目的)

第2条 センターは、奈良教育大学の教育と研究に関わる学術情報・資料の収集、利用及び活用の促進を目的とする。

(組織及び業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、次の組織を置き、各業務を行う。

- 一 図書館部門
 図書、教育資料等の学術情報の収集、管理、提供及び展示を行う。
- 二 (以下、略)

資料 8 - 2 - 1 - B 図書館ホームページの URL

<http://www.nara-edu.ac.jp/LIB/libindex.htm>

資料 8 - 2 - 1 - C 資料蔵書受入統計

蔵書冊数 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

種 別	図書 (冊)	雑誌 (種類)
和	271,774	5,933
洋	45,858	850
点 字	153	0
合 計	317,785	6,783

視聴覚資料所蔵数 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

マイクロフィルム	マイクロフィユ	フレッチテープ	ビデオテープ	CD・LD・DVD	レコード	映画フィルム	スライド	CD-ROM DVD-ROM
10	2	14	16	246	8	3	15	26

図書受入冊数・雑誌受入種類数 (平成 20 年度)

区分	和				洋				合計
	購入	寄贈	製本	計	購入	寄贈	製本	計	
図書 (冊数)	2,785	1,150	192	4,127	196	86	41	323	4,450
雑誌 (種類数)	268	975		1,243	147	11		158	1,401

資料 8 - 2 - 1 - D 奈良教育大学学術情報研究センター図書館図書資料収集方針 (第 2 条~第 4 条)

(目的)

第2条 この方針は、奈良教育大学 (以下「本学」という。) の教職員及び学生等利用者にとって教育・研究活動に必要な資料を系統的に収集し、教員養成大学図書館として体系的で均衡のとれた蔵書構成を図ることを目的とする。

(図書資料の種類及び範囲)

第3条 収集する図書資料の種類及び範囲は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 図書

ア	学生用図書 シラバス掲載図書（授業に関連するもの）、学習図書、教養図書
イ	参考図書 事典、辞書、図鑑、年鑑、ハンドブック、要覧、目録、索引
ウ	教科教育関係図書 教科書、指導書及び各教科に関する専門分野に必要な図書
エ	絵本・児童書 幼児教育及び初等中等教育に必要な図書
オ	奈良・大和に関する資料 文化、科学関係の図書
カ	その他の図書 貴重図書、大型コレクション、学内職員著作図書等
ニ	雑誌 学術雑誌、一般教養誌
三	その他 ア 視聴覚資料 VTR、CD、CD-ROM、DVD等 イ 電子化資料 電子ジャーナル、二次情報データベース、電子ブック等

（図書資料の選定）

第4条 図書資料の選定方法は、本学の教職員及び学生並びに学術情報課員の推薦に基づき、予算等を勘案のうえ学術情報研究センター運営委員会の議を経て学術情報研究センター長（以下「センター長」という。）が選定する。

資料 8 - 2 - 1 - E 図書資料貸出状況

	学 生		教 職 員		学 外 者		合 計	
	貸出者数	貸出冊数	貸出者数	貸出冊数	貸出者数	貸出冊数	貸出者数	貸出冊数
平成 18 年度	7,315	13,770	878	1,661	450	1,248	8,643	16,679
平成 19 年度	7,385	14,491	986	1,896	458	1,135	8,829	17,522
平成 20 年度	8,389	14,015	1,123	1,927	579	1,126	10,091	17,068

【分析結果とその根拠理由】

図書館には基本的な設備が整えられており、平日の夜間に加え、土曜日にも開館し、学生への主体的学習支援に資している。教員養成という本学の目的に沿った図書資料を「図書資料収集方針」に基づき収集・整備しており、教科書・指導書コーナーやシラバス図書コーナーの配置など、学生の利便を図っている。学生への貸出実績は、1人あたり年間約13冊となる。その他、図書館間の相互協力の実施や文献複写サービスも行っている。

以上のことから、図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されていると判断できる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 教育実習用として、奈良市内の主要小・中・高等学校が使用する教科書を主に購入している。小学校・中学校は本学附属校、奈良市教育委員会採用の教科書を各科目3冊ずつ、採用されていない教科書も各科目全種類を1冊ずつ購入している。なお、この小学校及び中学校の教科書出版社の教科書を購入し、利用に供している点は、課程認定大学実地視察において評価されている。
- ・ 「えほんのひろば」は、附属学校園との連携教育、また地域の家庭教育の支援を目的に開設した、特色ある取組である。絵本を活用した授業の場、附属幼稚園園児の保育、学生のクラブ活動での利活用の場、子育て支援としての地域における交流の場及び現職教員(公立図書館司書を含む。)の再教育の場となるよう充実を図っている。
- ・ 施設・設備について、教育課程の実現に応える規模と種類は整備されている。また、それらの利用の方針や規則を明確に定めている。
- ・ 情報インフラとしてのキャンパスネットワークは、学生のレポート作成、学術情報検索・収集等、快適な利用環境を有している。

【改善を要する点】

- ・ 図書館資料費等の面から、基本図書等、適宜新刊図書を揃えるには困難な状況である。教員推薦・学生推薦による図書購入を効果的に推進し、利用者の要望を的確に反映していきたい。

(3) 基準8の自己評価の概要

本学の高畑団地においては、大学設置基準に適合するとともに、十分に施設整備された環境であり、教育課程の実現に応えるべく、有効に利用されていると言える。集約的な団地という有利な立地条件もある。情報インフラとしてのキャンパスネットワークは、学生に快適な利用環境を与えている。学生に対する調査からも、比較的高い満足度が得られており、学生の勉学への有効な支援機能を果たしている。

施設・設備の運用については、全学的、個別的観点共に、明確に規程化されている。

図書館には基本的な設備が整えられており、平日の夜間に加え、土曜日も開館し、学生への主体的学習支援に資している。教員養成という本学の目的に相応しい図書資料を「図書資料収集方針」に基づき収集・整備しており、教科書・指導書やシラバス掲載資料等、学習環境の整備のために必要なものについて購入を図っている。また、特色ある取組として「えほんのひろば」が挙げられる。

